

## 職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・会議や業務振り返り等により業務改善に職員が意識して取り組んでいる
  - ・園長懇談、個別面談、アンケートの中で把握し、保護者の希望を改善へ繋げている。
  - ・センター全体、職種、部署等で様々な種類の研修が年間を通じて行われている。
- B「適切な支援の提供」について
- ・カンファレンスで計画書の内容を検討し、これに基づいて支援している。
  - ・プログラムに様々な活動を取り入れバランスよく組み立てている。
  - ・毎日ミーティング、振り返りを行い、療育終了後に記録を記入し、こどもの変化や支援の改善につなげている。
- C「関係機関との連携」について
- ・園訪問、療育参観にて、保育所・幼稚園との連携を図っている。
- D「保護者への説明責任等」について
- ・定期的および希望時に面談を行い、助言および家族支援を行っている。
  - ・保護者同士の連携を支援するため、交流会を設定している。
- E「非常時等の対応」について
- ・月1回避難・消防訓練を行い、非常時の各マニュアルをハンドブック等で周知するよう努めている。

## 保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・できているとの評価は84.5%。
  - ・子どもの特徴を捉えた上で、課題を分析し適切に作成された支援計画に基づき療育が行われている。
- B「保護者への説明等」について
- ・できているとの評価は89.5%。
  - ・「定期的に活動概要や行事予定、連絡体制等を子どもや保護者に対して発信されているか」の項目は全員が「はい」と回答し、高い評価を得られている。
- C「非常時の対応」について
- ・できているとの評価は96.0%。
  - ・「定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」の項目は全員が「はい」と回答し、高い評価を得られている。
- D「満足度」について
- ・満足との評価は92.0%。

## 事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 会議や業務の振り返りとともに、園長懇談、個別面談等で保護者の希望を把握する中で、プログラム内容等の改善に努めている。
- コロナが収束してきている中、感染予防には引き続き注意しながら、保護者へのタイムリーで丁寧な説明、周知の機会を増やすとともに、保護者同士の交流が促進できるようなサービス提供を進めていく必要がある。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している  
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている  
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている  
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

### 事業所の改善点

- 新型コロナウイルスの感染が収束してきている中、引き続き感染を予防しながら、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容、非常時のマニュアル等をタイムリーかつ、より丁寧に説明、周知します。また、日々の子育てにおける困りごと等について相談しやすい環境や、保護者同士の交流が促進できるような環境整備を進めます。
- 両親就労家庭の増加等、多様な家庭状況に合わせた療育の提供が図れるよう、療育体制の充実に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度は新型コロナウイルスが収束してきている中、引き続き感染を予防しながら、コロナ禍よりも利用者と直接接する機会も増やし、療育方針や療育内容についてのわかりやすい説明に務め、療育サービスの充実に努めてきました。今後も、さらに、子育てに関する不安等についてタイムリーに相談できる環境を整えていくなど、安心して子育てができるよう、療育サービスの充実に努めてまいります。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 大坂 恵一

職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・会議等で業務改善に職員が意識して取り組んでいるが、反映されていないという意見もある。
  - ・園長懇談、個別面談、アンケートの中で把握し、保護者の希望を改善へ繋げている。
  - ・センター全体、職種、部署等で様々な種類の研修が年間を通じて行われている。
- B「適切な支援の提供」について
- ・カンファレスで計画書の内容を検討し、これに基づいて支援している。
  - ・こどもの特性によりプログラムの固定化を意図的に行う場合もある。
  - ・毎日ミーティング、振り返りを行い、療育終了後に記録を記入し、こどもの変化や支援の改善につなげている。
- C「関係機関との連携」について
- ・療育参観・園訪問・就学時引継ぎを通して、保育所、幼稚園、学校と連携している。
- D「保護者への説明責任等」について
- ・定期的な面談の他、希望時面談、電話、連絡用紙等、タイムリーに相談できるための工夫をしている。
  - ・保護者連絡会や、クラスごとのおたよりにより、活動の目的、連絡事項、次回の予定等を伝えている。
- E「非常時等の対応」について
- ・月1回避難・消防訓練を行い、非常時の各マニュアルをハンドブック等で周知するよう努めているが、さらに周知が必要。

保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・できているとの評価は93.0%。
  - ・子どもの特徴を捉えた上で、課題を分析し適切に作成された支援計画に基づき療育が行われている。
  - ・家ではできない経験を盛り込んだ多彩なプログラムを行っているが、固定化されているものもある。
- B「保護者への説明等」について
- ・できているとの評価は91.6%。
  - ・定期的な面談の他、連絡用紙を利用するなどして相談しやすい雰囲気や環境を整えている。
  - ・コロナが収束するに連れて、保護者同士交流する機会は増え、他クラスの保護者と交流する機会も得られているが、まだ機会が少ないとの意見もある。
- C「非常時の対応」について
- ・できているとの評価は96.0%。
  - ・避難訓練時、パニックならずに参加できるように配慮されている。
- D「満足度」について
- ・満足との評価は89.5%。
  - ・とても楽しく通っている。
  - ・声掛けを増やしてほしいとの意見もある。

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 「非常時の対応」における、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等については、保護者への周知・説明ができていないとの意見があった。
- コロナが収束してきている中、感染予防には引き続き注意しながら、保護者へのタイムリーで丁寧な説明、周知の機会を増やすとともに、保護者同士の交流が促進できるようなサービス提供を進めていく必要がある。
- より効率的な業務遂行のため、引き続き業務改善を進める必要がある。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している  
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている  
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 多職種間での情報共有を行い、より良い支援に努めている  
多職種間で定期的に情報共有を行うことで、多方面からの支援体制が確立できている。

### 事業所の改善点

- 新型コロナウイルスの感染が収束してきている中、引き続き感染を予防しながら、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容、非常時のマニュアル等をタイムリーかつ、より丁寧に説明、周知をします。また、日々の子育てにおける困りごと等について相談しやすい環境や、保護者同士の交流が促進できるような環境の整備を進めます。
- 両親就労家庭の増加等、多様な家庭状況に合わせた療育の提供が図れるよう、療育体制の充実に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度は新型コロナウイルスが収束してきている中、引き続き感染を予防しながら、コロナ禍よりも利用者  
と直接接する機会も増やし、療育方針や療育内容についてのわかりやすい説明に努め、療育サービスの充実に  
努めてきました。今後も、さらに、子育てに関する不安等についてタイムリーに相談できる環境を整えていく  
など、安心して子育てができるよう、療育サービスの充実に努めてまいります。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 大坂 恵一